

支倉常長フェロー報告書

提出日 24年 7月 27日



申請者	氏名	坂田直昭
	所属・職	肝胆膵外科・助教
出張期間	24年 7月 14日 ~ 7月 21日	
渡航先	ベルリン	
渡航目的	学会参加・共同研究のための留学・()	
発表演題名あるいは共同研究課題名	Intraoperative Ultrasound Examination is Useful for Monitoring Transplanted Islets.	

得られた成果など

国際移植学会はわれわれの研究テーマである膵島移植の他、肝、腎、心、肺、細胞など、移植に関する医師、研究者にとって、最も権威ある学会のひとつで、2年に1回開催されております。今年はベルリンで開催され、当科からは私と吉松先生が発表のため参加して参りました。今回は



膵島移植のジャンルに限らず、われわれの研究テーマに関連しそうなセッションに参加してきました。例えば、異種移植を成功させるための鍵として何を考えるべきなのか（免疫抑制剤がターゲットとするポイント、特異的な異種動物抗原

について)、あるいは人工臓器を開発する上で行われている手法などが、それに当たります。また、慢性膵炎に対する自家膵島移植は主に米国で行われている治療法ですが、米国におけるその現状を現地に留学されている研究者の方から聞く機会を得ました。これは今後、慢性膵炎の外科治療を本学としてどのように考えていくべきなのかを考える良い機会であるとともに、この話題に対応するような新たな動物実験を行う良いヒントにもなりました。今回は私の研究テーマのひとつである、移植膵島のイメージングに関して知見がひとつ得られたので報告致しました。この領域の報告はまだ希少ですが、今後とも少しずつ知見を増やしていけたらと思います。

本フェローのお陰で今後の研究を進めていく上で有意義な情報を多く得ることができました。改めまして感謝申し上げます。